

藍陵園病院

住所	大阪府茨木市高田町 2 - 5	電話	072-625-6372
病床数	210 床	病棟数	4 病棟

人権センターニュース No. 91 より

オンブズマン活動報告

平成 20 年 7 月 8 日訪問

病院全体について

藍野病院や系列の看護学校・中庭・本屋・食堂・売店等に囲まれている。病院によると系列の病院があるが、ここは個人病院との説明。病院前の庭は広く患者が単独や数名で散歩したり、くつろいでいた。患者は物静かな様子で、小歩で首を垂れて前かがみで歩く人が多く、長期療養の様子がうかがわれた。

R21 病棟では患者の要望を聞く場として月 1 回、茶話会が開かれていた。茶話会で要望が出たことで、希望すれば毎日シャワーが出来るようになった。R11 病棟では病室 9 室のうち重症患者が入院している 3 室にはナースコールがあった。

前回の訪問時(平成 16 年 4 月)にはいなかった PSW は、常勤 2 名が配置された。退院促進の為の勉強会を開いたり、実際に退院された方の体験談を聞く場を開いたりしているそうだ。

病棟職員にお話を聞くと「まだ 1 年経っていない」等の返事が多く、入浴日等を聞いても「分らない」等、明確な説明を頂けない事が多かった。

【リハビリプログラム】

長年看護師として働いてきた職員が責任者で、自由裁量で様々なプログラムを行っている。参加自由で、午後はレクリエーション等。患者の活動性を引出す工夫をしているそうだ。会社からの発注でお菓子の箱作り等もしていて、そのような作業の給金の支払等はきちんと記録されていた。1 月分の金額が氏名の横に書かれていた。

病院側の説明

- (1) 人権委員会: 委員長は看護師長。2 ヶ月に 1 回開催。意見箱は各病棟と外来に設置され、回収は 2 ヶ月 1 回。投書への回答は掲示。
- (2) 行動制限最小化委員会: (1) と同時に開催。
- (3) 担当制: 担当看護師はいる。
- (4) 診察: 詰所でおおよそ週 1 回ずつ行われる。詰所の端を衝立で囲んで行っている。
- (5) 服薬: 寝たきりの人は看護師がベッドまで持参し、その他の患者は詰所で受け取る。
- (6) 外出: 開放処遇の患者は詰所前で氏名・行先・時間等を記入して外出する。
- (7) 金銭管理: 管理費 210 円/日。鍵付ロッカーは全員有(無料)。出金は伝票に記入し 1 階医事課でお金を受取る。月 6,000 円の管理費が要るので残高が 6,000 円になるとお金は使えない。
- (8) 食事の選択メニュー: 週 2 回(昼・夜)。
- (9) 入浴: 週 2 回。希望すればシャワー使用可。
- (10) 面会: 面会時間 8:00~20:00。面会室は外来に有。(患者や詰所で職員に聞いても「ない」とのこと。周知されていないようだった。)
- (11) 携帯電話: 持ち込みできない。
- (12) 院内売店: なし。
- (13) PSW: 常勤 2 名。退院支援、入院受入、金銭管理、家族間調整、関係機関との連携等。

R11 病棟(男性閉鎖・48 床)

50 歳代が中心で開放処遇の患者は 10 名程。病棟は回廊式で中心が中庭になっていた。病室は 4~6 人部屋で、ベッド間は 1 人通れる程度のスペースしかなかった。床頭台ごとにライトがあった。食堂があり、訪問時は職員がカンファレンスをしていた。食事時間以外は患者は入れないようだった。デイルームにはテレビと本棚にはマンガ本が多数あった。中庭にコイン式の洗濯機と乾燥機があった(100 円/回)。その中庭が喫煙所にもなっており、灰皿とライターがあった。

R12 病棟(女性閉鎖・48 床)

トイレは 2ヶ所。トイレ入口の手洗いは蛇口 4つ(うち使用できるのが 2つ)で、人数から考えると少ない。10 名程がやっと座れるくらいの広さのデイルームにはテレビを見たり、折り紙をしている患者がいた。意見箱の回答として 12/20、1/18、3/11 分が掲示があった。いずれも建物の改修・改善に対する要望で、意見を書いても改善されない現状のようだった。

R21 病棟(男性開放・60 床)

詰所のドアは全て開放していた。半数程の患者はベッドでくつろいでいた。ベッド周囲に私物が沢山あった。詰所前の古いソファで患者がくつろいでいた。使わなくなった集煙テーブルが普通のテーブルとして使用。食堂はない。病棟の両側にトイレがあるが一方の尿臭がきつかった。

R31 病棟(男女開放・60 床)

病院側の説明 平均年齢は 66~68 歳で、高齢の患者が多い。在院期間は平均 8 年以上で、20 年以上の患者もいる。外出をしたがらない患者も多い。1 日 1~5 名くらいが外出していて、よく行く人は決まっている。金銭の自己管理は 5 名以下。薬の自己管理は 2 名で、1 週間分を渡す。定期的にレクリエーションをしていて、水曜日は食堂でカラオケをする。他科受診の一部は医大で、ほとんどは藍野病院。病棟には看護学生が 5 名配置され、寝たきりの患者 5 名を受持ってケアしている。たばこは外出時に買い自己管理。喫煙場所は 1 階の屋外にある。

病棟の様子 おやつが終わったところで、デイルームに 15 名ほどの患者が座っていた。入浴時の事故があったそうで、浴室入口には「一般入院患者さんの入浴時でも職員が 1 名付き添います」との掲示があった。個室内には手すりやナースコールがあった。

患者の声

R11 病棟「ケンカをしたら保護室という牢屋に入れられるので不満が言いにくい」「(ベッドごとにある)ライトを点けても暗くて本も読めない」「(閉鎖処遇なので)外出は前もって約束してたら職員が連れて行ってくれる」「ここ(デイルーム)は雨漏りがする。中庭の喫煙所も雨漏りがする。中庭全体も屋上に可動式の屋根があるがそれも壊れて閉まらない」「(天井にヒビがいくつか見えた。喫煙所のトタン屋根もいくつか穴があった。)

R12 病棟「浴室が狭い」「足が悪いのでお風呂につかれぬい」「(浴槽の縁が高かった。)

R21 病棟「九州に帰りたい」

R31 病棟「学生さんは良くしてくれる」「目が痛いからテレビは見ない。水戸黄門は見るけど」「20 年病院にいる。以前は家族に会っていたが、今は会ってない」

複数の病棟で職員から「ビシビシ言ってください。問題がたくさんある」等の声があった。

検討事項

1 階浴室の脱衣所(R11 病棟)

1 階の浴室は R11 病棟(男性病棟)にあった。脱衣所から浴室に行くためには、男性トイレを横切らないといけないう造りだった。この浴室は R12 病棟の女性患者も使用している。入浴時の患者の尊厳を守り、プライバシーを保障するという観点からも何らかの配慮がなされるよう検討をお願いしたい。(病院:今後大規模回収計画が具体的になった時、優先課題として検討します。)

費用負担の内容・額

月に 6,000 円の管理費がかかり、その内容は詰所での説明によると電気代・水道代・お茶代・新聞代等とのことだった。これらには平成 17 年 9 月 1 日付厚生労働省保険局医療課長・厚生労働省保険局歯科医療管理官通知「療養の給付と直接関係ないサービス等の取扱いについて」にある「療養の給付と直接関係のないサービスとはいえないもの」(費用をとってはいけないもの)も含まれているのではないだろうか。負担金の内容や額に疑問を感じた。検討をお願いしたい。(病院:210 円/日の預金管理費以外は徴収していません。それも金銭管理可能な自立患者に対しては徴収免除も行っています。また管理費の内容におきましては医事課を中心に金銭管理説明を行っていますので、病棟詰所で誤った認識による聞き取り行って戴いた様で職員周知不足の為事実と違う回答をした点は申し訳ございません。入院手続書類も当然厚労省通知に従った内容に基づいてしか徴収していません。)

薬を渡すために番号で管理

病棟のしおりに「あなたのお薬の番号は〇番です」との記載があった。このような記載は他病院では見たことがない。病院によるとリスク管理のため、薬の番号は薬局から必要と言われているとのことであったが、管理者中心の眼差しであると感じた。患者の顔と名前を確認しながら薬を手渡すという姿勢をお願いしたい。(病院:当然患者の顔と名前を確認して手渡していますし、管理目線というより番号の意味は患者の手元に届く以前の過程で同姓同名や紛らわしい名前の患者の受授間違いを防ぐ為安全管理体制に万全を期すもので患者に配慮しないものではない。)

R12 病棟(1 階女性病棟)の狭さの解消を

前回の訪問時でも検討事項にあげていたが、R12 病棟には食堂がなく、食事時になると廊下の壁沿いに机が並べられ、そこが食事場所になっている。落ち着いて食事をする環境とは言い難い。

1 階に 90 床(2 病棟分)というのは広さの割に病床数が多すぎるのではないだろうか。前回の訪問時に「昭和 52 年 10 月の建設以来改築はしておらず、古くなったため、平成 18 年前後に 1 人当たりの病室の広さを 8 平方メートル程度まで広くすることを目標とし、移転できるような計画がある」との説明を受けたが、前回訪問後、移転や改築はされていなかった。特に R12 病棟側の人口密度の高さ、そのことによる圧迫感を感じた。

1 階を女性病棟のみにする、あるいは男性病棟のみにする等、患者の身になった方針の検討をお願いしたい。(病院:問題は承知しています。数年前実際に改築又は移転計画案が検討されていましたが経営上の問題に絡み、計画は現在進行していない現状である。構造上の問題は早急な対応は困難ですが今後病院全体の課題として認識しています。)

隔離室について

○ 入って正面の壁には窓があり、鉄格子がはまっていた。鉄格子の奥は倉庫のようになっていてロッカーや段ボール箱など様々なものが置かれ、雑然としているのが見えた。

○ 洋式トイレは蓋部分がベニヤ板で塞がれ、その横にポータブルトイレがあった。囲い等はなかった。水洗の操作は室内からはできず、外から行う。手洗いの水も出ない状態だった。

○ 入口の鉄扉は錆び、厚さは 13cm 程だった。ナースコールはなく、モニターカメラがあった。

急性症状のしんどい時期を隔離室の中で過ごす患者にとって安心し、落ち着ける環境とは言い難いのではないだろうか。鉄格子の奥にある荷物を他に移すことはできないのだろうか。また、トイレ周りの囲いの設置や鉄格子の撤去等を含め、患者に「牢屋」(患者の声より)と感じさせないように、設備の改善をお願いしたい。(病院:建築年数に応じて旧式の形態となり劣化している点は憂慮するところです。全体的な改修課題ととらえています。トイレ洗面は当院の隔離室入室者には多飲水患者が多くトイレの汚水飲水防止(人道的判断)、飲水による生命危機予防又は不穏患者の自傷防止など安全対策の意味で蛇口トイレの常設は現設備では困難な状況にあり、この件地域保健感染症課にも連絡相談しており代替対応することで確認しています。以上の観点からも隔離室の性格上極力物を置かない状態になり、殺風景になりがちでなかなか安心して落ち着ける環境とは難しい点もあるかと思いますが出来るところから前向きに検討していきたい。)

診察時の呼び出し

入院患者に診察を知らせるために、全館放送で患者数名の名前が呼ばれていた。患者のプライバシー保護の観点からも1人1人を病室に呼びに行く、あるいは事前に診察日時を伝えておく等の対応の検討をお願いしたい。(病院:全館放送ではなく病棟内放送であり、もちろん事前に診察日時は伝えている。只患者も自分の病室にいるとは限らず放送を使うこともある。今後は主治医の診察案内に係わる配慮等検討致します。)

電話の囲い・金銭管理の支援

電話は廊下やデイルームに設置されていて囲い等はなかった。コイン式の電話で、金銭を病院に預けている患者は電話をかけるたびに職員から小銭をもらわないといけないことも含めプライバシーが確保できない状態だった。他人に聞かれたくないプライベートなこと等を周囲に気兼ねなく電話できる環境の検討をお願いしたい。

患者から「カード式電話にしてもらい、そのカードを持っておきたい」との声があり、意見箱には「コイン式の電話をテレホンカードが使えるようにしてほしい」という要望が出されていた。意見箱への病院側の回答は、「NTTが規定する金額に満たないのでテレホンカード式の電話設置ができない」との内容だった。テレホンカードの電話が設置できないとしても、金銭を病院に預けている患者に対し、自己管理のための支援として患者ごとに金額を設定し手元に金銭を置けるようにするようお願いしたい。(病院:プライバシー対応として電話設置環境は今後検討していきたい。金銭の自己管理は、監督行政へも回答しており自己管理可能な患者には積極的に自己所有を進めていますし、もちろん自己管理困難な患者のみ都度コインを渡しています。出来ることなら病棟スタッフも手間が省けますし止めたいのですが、逆に本人、家族からの希望があり自己管理困難者に対し必要に応じて行っています。)

高齢の患者に配慮したつくり

○ R31 病棟ではトイレや洗濯室の入口に10cm程の段差があった。高齢の患者の割合が増えてきているようであったが、この段差により、車椅子等を使うようになればトイレを使うことは難しくなり、病室でポータブルトイレを使ったり、おむつを使用せざるをえなくなるのではないだろうか。

○ デイルームのクロスが広範囲に渡って浮き上がり、段差ができていた。足を引っ掛けて危ないと感じるところもあった。

○ R11 病棟の浴槽は、患者の声にもあるように縁が高くなっていて、浴槽に入るためには足をかなり高く上げないといけない。

○ 患者の安全の確保や適切な療養環境という観点からの必要な改修はすべきではないだろうか。(病院:病室他出入口等に傾斜加工設置等出来ることから段差対策を夏以降行っています。フローリングクロスにおいても全館にわたり、大幅な修繕を行っています。ご指摘のトイレ、浴槽に関しては全体的な改修課題と考えます。)

ベッド周りのカーテン

一部のベッドの周りにはカーテンが設置されていたり、衝立で仕切られていたが、多くのベッド周りにカーテン等の目隠しはなかった。病棟によっては病室の扉に窓があるため、廊下から室内がみえた。患者のプライバシー保護の観点からもベッド周りにカーテンを設置することをお願いしたい。(病院:昨年秋に30床程カーテンが追加設置されました。追加設置を検討していきます。)

トイレの男女共用 (R31 病棟)

トイレが男女共用だった。患者の尊厳を守るため男女別にするをお願いしたい。(病院:課題と考えています。大きな構造上の問題であり大規模改修案件の中で検討します。)

入浴の回数

衛生面や生活上の楽しみという面でも、入浴が週2回は少ないのではないだろうか。増やす方向で検討をお願いしたい。(病院:院内で検討していきたいと思います。)

H20 大阪府精神保健福祉関係資料より(藍陵園病院分)

198名の入院者のうち統合失調症群が143名(72%)、精神作用物質煮による精神及び行動の障害が22名(11%)。入院形態は任意入院131名(66%)、医療保護入院67名(34%)。在院期間は1年未満が41名(21%)、1年以上5年未満が70名(35%)、5年以上10年未満が37名(19%)、10年以上20年未満が48名(24%)、20年以上が2名(1%)。

(H20.6.30時点)